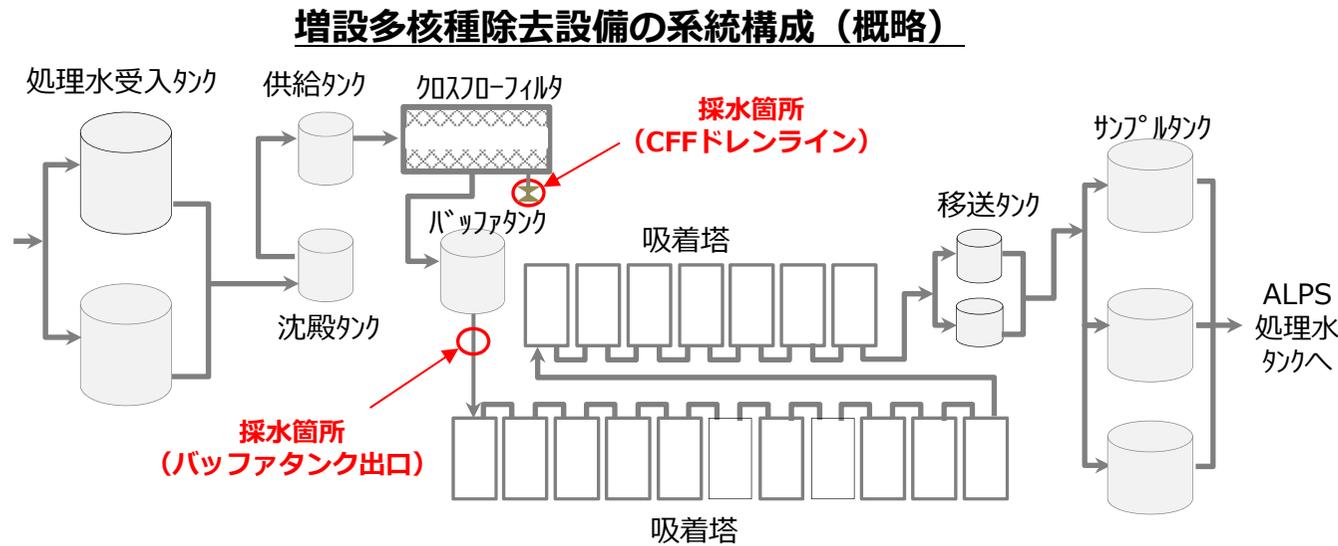


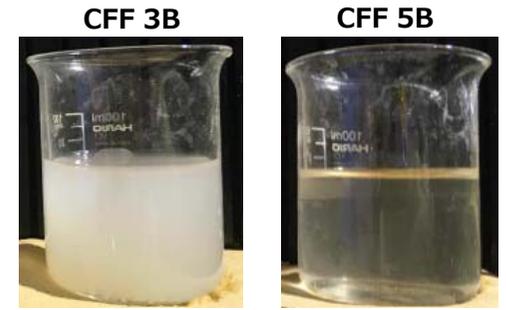
- 10/27に点検を行っていた増設多核種除去設備(以下、増設ALPS)(B)の運転再開にあわせ、バッファタンク出口の水を採取したところ若干の白濁を確認、さらにクロスフローフィルタドレンライン(以下、CFFドレンライン)において濃い白濁を確認したことから増設ALPS(B)を停止しました。なお10/27にバッファタンク出口から採取した水のカルシウム濃度は4ppmであり、ALPS出口処理水への核種除去性能への影響はないものと考えている。
[<2020年11月4日 お知らせ済み>](#)
- その後原因の調査を進めていますが、これまでの調査において新たに確認された内容について、お知らせいたします。
 - 10/27の運転時に処理した水の影響を確認するため、サンプルタンクで一時貯留している水のカルシウム濃度を測定した結果1ppm未満であり、さらに放射能濃度を分析した結果、炭酸塩スラリーが透過した場合に影響するストロンチウム90の濃度はND(<0.0909ベクレル/ℓ)(告示濃度比：0.003)と低いことを確認した。
 - 点検前に運転していた期間(9/15～23：二次処理性能確認試験(J1-C群))のバッファタンク出口水のカルシウム濃度を確認したところ、9/15～22までは約0.9～2.3ppmの範囲、9/23は約14ppmであった。ただし、後段のサンプルタンクの分析をした結果、ストロンチウム90の濃度は0.0357ベクレル/ℓ(告示濃度比0.0012)と低いことを確認した。
 - 増設ALPS(B)に加え、11/12に増設ALPS(A)(C)のCFFドレンラインで水を採取し、カルシウム濃度の分析を行ったところ、増設ALPS(B)も含めて18基(6基×3系統)あるCFFのうち、計6基(2系統)に炭酸塩スラリーの透過の兆候を確認した。なお、増設ALPS(A)(C)のバッファタンク出口でのカルシウム濃度は、(A)(C)ともに約2ppmであった。
- なお、当該系統で処理した水(二次処理性能確認試験含む)において、白濁に伴う有意な影響は確認されていません。引き続き、白濁の原因を調査していきます。

<参考> 系統概略図および増設ALPS各CFFドレンライン水のカルシウム濃度測定結果



カルシウム濃度測定結果

(10月28日にCFFドレンラインにおいて採取した水)



CFF 3B Ca濃度：約260ppm 白濁：あり
 CFF 5B Ca濃度：約1.6ppm 白濁：なし

■増設ALPS 各CFFドレンライン水のカルシウム濃度測定結果

	採取日	CFF1	CFF2	CFF3	CFF4	CFF5	CFF6
増設ALPS(A)	11/12	11.3 ppm	2.2 ppm	34 ppm	2.7 ppm	2.8 ppm	173 ppm
増設ALPS(B)	10/28	3.6 ppm	250 ppm	260 ppm	72 ppm	1.6 ppm	7.7 ppm
増設ALPS(C)	11/12	2.1 ppm	2.3 ppm	2.5 ppm	5.2 ppm	1.7 ppm	1.3 ppm